安2 安全管理活動分科会（第２会場）

会 場 京都経済センター（２Ｆ京都産業会館ホール）〔京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78〕

交 通 京都市営地下鉄烏丸線「四条駅」北改札口より徒歩２分
阪急京都線「烏丸駅」西改札口より徒歩２分（地下鉄及び阪急／地下道26番出口）

10月24日（木） プログラム（9:00開場）

9:30

1 「TMKユニーク活動」による職場の安全・安心量向上に関する事例の紹介
トヨタ自動車九州㈱
安全健康推進部 安全衛生推進室 グループ長
下田 健晶

弊社では過去より、様々な安全活動を通じ、災害ゼロを目指して取り組んでいる。一方、製造経験のない新規従業員の増加等、取り巻く労働環境も変化が著しい状況である。このような状況を踏まえ、「効率的」「タイムリー」「非言語化」をコンセプトに活動を進めており、ここで紹介する。

9:50

2 安全巡視の指摘と気づきを作業者の「考動」に結びつける再発防止対策の確立について
㈱九電工 長崎支店 大村営業所
副所長
土本 英治

安全巡視において管理者は指摘と気づきを与えるだけで根本的な改善対策を提示していない。作業者も順守する気持ちはあるがマンネリ化で同じミスが多い。「考動」の精神のもとに全員で改善対策を検討し、具体的な再発防止策を明確に実施することで類似災害撲滅と安全意識向上を目指す。

10:10

3 更なる労災件数減少を目指した「安全意識」の呼び起こし活動
ローム㈱
環境管理室 安全衛生管理Ｇ 主任
中村 正憲

当社では以前から災害ゼロに向けた活動をしているが労働災害がなかなか減少しない。この状況を改善する為、基本に立ち返り、生産設備を持つ部署から事務業務が中心の部署まで、全社をあげて5Sの再徹底をはじめとした全員参加型の安全衛生活動を実施している。

（10:30 ～ 10:40 休憩）10:40

次ページにつづく

安2 安全管理活動分科会（第2会場）

10:40

4 アーク溶接作業における火傷災害防止対策マニュアルの作成

(公社)神奈川労務安全衛生協会
溶接専門委員会委員長（㈱IHI技術開発本部技術基盤センター）
小林 和行

溶接作業における火傷の災害事例について調査・分析を実施した所、溶接方法や材料の種類により受傷の状況が変わる事が確認された。この事から作業の注意点や保護具の種類、着用の方法を適正にする事で、災害を未然に防止する為の研究を進めた。今後の安全教育に役立てたいと考える。

11:00

5 大分製鉄所における安全体質改善の取り組み

日本製鉄㈱ 名古屋製鉄所
薄板部 熱延技術室 室長
立石 康博

大分製鉄所では、2016～17年の重篤な災害発生を受け、安全活動を見直した。管理者の業務運営、組織間のコミュニケーション、現場の本気度を強化する8つの具体的取り組みと、安全部門による刺さり込み指導の結果、2018年は災害度数率が見直し前の0.35から0.05に改善した。

11:20

6 安全文化構築に向けた取り組み

㈱GSユアサ
安全衛生統括部 担当
片桐 義隆

災害多発を契機に会社全体の取り組みとして安全衛生管理の強化を行ってきた。トップの宣言・決意表明から従業員に対する意識調査や「ポケテナシ」推進活動等の各種啓発活動、また設備・作業の安全総点検、構内歩車分離・転倒防止対策等の取り組みについて紹介する。

11:40

7 災害0への近道！ 安全活動の見える化～「3大災害防止『三位一体』キャンペーン」～

三機工業㈱
安全衛生品質環境推進室 安全衛生管理部
春原 光子

2017年夏、労働災害ゼロを目指し「3大災害予防『三位一体』キャンペーン」を実施した。これは当社と協力会社の団結を強めることで全員参加の災害予防を推進したいとの想いに基づいて実施したキャンペーンである。その取り組み事例とキャンペーンの効果について紹介する。

（12:00～13:10 昼休み）13:10

事例報告

住友化学大江工場（住化アッセンブリーテクノ㈱含む）における安全衛生取り組み
〈(一社)日本化学工業協会 安全表彰 最優秀賞受賞〉

住友化学㈱ 大江工場
環境・安全部長
園部 純也

「安全をすべてに優先させる」を基本とし、事故・無災害を実現する自律的な集団を目標に活動している。「安全活動には、皆で思いを合わせ、目標に向かって努力しつづけ、後戻りしないために良い風土と文化を築くためのマネジメントが欠かせない」との思いを大切にしながら各種活動を展開しておりその取組みを紹介する。

13:40

8 職場主体の安全衛生活動の推進

日本特殊陶業㈱ ファシリティエンジニアリング本部
環境安全部 安全衛生課 副主管
渡辺 憲治

各社の職場が安全衛生活動に関して主体的に動かず、困っている。さまざまな原因を挙げ分類したところ、「人」「仕組み」「風土」の3つに課題を分けることができた。これらに対して既存の取り組み異業種の事例を紹介しつつ「職場の主体的な安全活動」のあるべき姿を追求した。

14:00

9 産業医選任を契機とするK社における安全衛生活動の推進

(一財)京都工場保健会
産業保健推進部 医療次長
櫻木 園子

K社では、2017年に本社工場の従業員数が50人を超えたため産業医を選任し、月1回の安全衛生委員会、職場巡視に参加している。安全衛生活動の取り組みに主任・副主任の意識向上が必要と考えられ、主任会議で主任を中心とした組織づくりを働きかけ、意識の改善が見られている。

（14:20～14:30 休憩）14:30

10 KJ法を活用した安全衛生活動の不全を追究した取り組み

㈱IHIビジネスサポート 本社
安全衛生部 参事
清水 和雄

労働災害の発生に繋がった不安全状態や不安全行動などの細々とした不安全要素を、KJ法で図解して安全衛生活動の不全を明らかにし、抜け漏れのない抜本的な安全対策を講じた取り組み。

14:50

11 実験作業の事前安全検討会による作業安全の向上

(一財)電力中央研究所
横須賀運営センター 安全管理センター 上席
大友 直子

当所は、実験作業が多岐にわたるとともに危険をともなう作業が多いことから、設備の設置や改造および作業手順の見直しの際、作業関係者と各種管理者等で事前安全検討会を開催している。これにより事前に危険因子を抽出し、的確な対策を施すことができ、高い作業安全性を確保している。

15:10

安2 安全管理活動分科会（第2会場）

15:10

12 ボトムアップ・コミュニケーションアップによる安全力向上
ジャパン マリンユナイテッド㈱ 舞鶴事業所
安全衛生グループ グループ長
小島 信行

災害ごとに個々の対策を講じても別の災害が次々に発生する状況に陥り、共通する問題点をコミュニケーション不足と捉えてコミュニケーション向上の仕組みを取り入れた。結果、災害要因の顕在化、不安全の抑制に効果が上がり、災害職場からの脱却を図ることができた。

（15:30 ～ 15:40 休憩）15:40

特別報告

ハラスメント防止コンサルタントの役割と活動 ー未然防止から事案解決サポートまでー
(公財)21世紀職業財団ハラスメント防止コンサルタント
(㈱奥村組)
堀川 祐三子

今や社会問題となった職場のハラスメント。未然防止に加え、事案発生後の迅速・適切な対応が鍵となる。ハラスメントの専門家として防止対策や事案解決のコンサルティング、研修講師、相談対応と幅広く活躍するハラスメント防止コンサルタントの活動を紹介する。

16:10

13 酒造メーカー特有の労働災害防止に向けた当社の取り組み
月桂冠㈱
醸造部 生産技術課 主査
井岡 勇児

酒造メーカーである当社の工場では、機械によるはさまれ、巻き込まれ等の危険性の他、濡れた床での転倒、酸欠など醸造工場特有の危険性がある。また最近では経験の少ない従業員への安全教育も重要となってきた。今回の発表では、これらの課題に対する当社の取り組みについて紹介する。

16:30

14 安全活動を牽引するキーマンの育成と事業所でのリスク発掘能力の向上
積水化学工業㈱ 京都研究所
生産力革新センター 安全環境グループ 課長
小野 宏

積水化学グループの国内約50事業所において、労働安全、防災に関するリスクの発掘と改善を推進する能力をより強化する必要が生じていた。この課題を解決するために、主にリスク抽出とアセスメント能力を付与したキーマンを養成した。２千名以上に教育展開してリスクを多数発掘した。

16:50

15 全員参加の5S活動による安全衛生の取り組み～作業者ファーストの職場づくり～
山崎製パン㈱ 京都工場
人事課 一般職
福田 健司

当社で取り組んでいる「全員参加の5S活動」の考えを、安全衛生活動に取り入れ、基本ルールの徹底を図っている。また、作業者の安全性・やりやすさを第一とする「作業者ファースト」を推進するために、作業者の気づきや困りごとを聴取することで根本原因を追究し改善に努めている。

17:10

10月25日（金） プログラム（9:00開場）

9:30

16 「安全衛生手帳」による意識向上
村田機械㈱
総務グループ 係長
久志本 雅子

村田機械の重要テーマに掲げる「安全と健康」を推進するため、安全衛生に関するルールを記載した「安全衛生手帳」を作成し、社員、派遣社員に配布するとともに教育を行った。業務中は各人が手元に置き、朝礼等で読み合わせをすることで安全衛生意識の向上を図っている。

9:50

17 安全行動を全員が自然に行える環境を築く～危険に対する感度を高める活動～
クロイ電機㈱ 京丹波工場
副工場長
中山 巧

当社では、毎週水曜日に安全朝会を実施し、ヒヤリ・ハットの経験をみんなで共有し危険個所の改善をしている。各職場の危険予知推進者が安全ポスターを作成掲示し、安全朝会で身近で発生した危険事例を話し、それをワンポイント指差し呼称として、職場のみんなで唱和し、安全意識を高めている。

10:10

18 長田野工業団地の安全衛生活動について
(一社)長田野工業センター
事務局長
井口 和馬

長田野工業団地内の災害件数が増加傾向となり福知山労働基準監督署様のご指導のもと、工業団地立地企業で安全衛生部会を組織し、労働災害撲滅に向けてスタートとしたのが始まりであり、その部会発足から30年間の活動により安全意識の向上と災害減少に繋がった。

（10:30 ～ 10:40 休憩）10:40

安2 安全管理活動分科会（第2会場）

10:40

19 労働災害発生続く！
～安全文化の再構築から無災害職場を目指して～
住友理工ホーステックス㈱
取締役 安全環境部長 京都事業所長
早瀬 康久

2014年会社操業以降、経験未熟な管理監督者が多く労働災害も頻発する劣悪な安全管理状況であった。規模・生産が拡大し新人作業者が多くなる中で、会社を挙げ全員参加の安全活動に取り組み、2017年度には初めて無災害を達成することができた。今回はその活動を紹介する。

11:00

20 「安全3本柱活動」絶対に重大災害を発生させない職場づくり
ダイハツ工業㈱本社（池田） 京都工場（京都地区）
工務部 京都・総括安全衛生室 安全衛生G 主担当員
氷上 幸治

当社は、2009年に主要3工場の構内で3件もの重大災害を発生させてしまった。これを機に絶対に重大災害を発生させないという強い意志を持ち、①異常は止める文化の構築、②歩者分離、③ルール遵守を3つの柱に今も継続して取り組んでいる「安全3本柱活動」について紹介する。

11:20

特別報告 「京都ゼロ災3か月運動」35年間の取り組みを振り返って
厚生労働省 京都労働局
労働基準部 健康安全課長
千田 幸子

昭和60年から毎年取り組んでいる「京都ゼロ災3か月運動」は本年35回目となった。「トップの安全衛生に対する宣言」と「危険ゼロ」の取り組みにより「災害ゼロ」の達成と「健康確保」を目標とする運動であり、近年の達成率は95％を超えている。本取組及び京都における13次防の取組等を紹介する。

（11:50 ～ 13:00 昼休み）13:00

21 過去の災害事例を教訓に相互啓発型の安全文化への転換へ「フォークリフトの安全対策」
日本板硝子㈱ 舞鶴事業所
管理室 室長
玉井 慎二

従来の「安全は管理の問題である」や、「安全は自己責任である」といった考え方から「我々全員が安全に責任がある」という相互啓発型安全文化へ転換する活動を開発した。過去の災害を教訓に、これまでの安全活動の変遷をフォークリフトの安全対策を通じて発表する。

13:20

22 「決めたことは守る」「みんなでつくろう明るい健康な職場」をスローガンとした安全衛生活動
三菱自動車工業㈱ 京都製作所
管理部 安全衛生グループ 所専任安全衛生主事
梅本 英一

弊所では年間無災害・無事故・無違反並びにメンタル疾患ゼロに向け、発生件数、原因等から対策を検討し、次年の安全衛生活動方針を策定の上、職場へ展開している。その内容を報告すると共に、全事業所での類似事象防止に向けた共通の取り組み内容、計画についても報告する。

13:40

23 「事故を起こさない、起こせない、起こさせない工場づくり」を目指した安全活動
ローム・ワコー㈱
管理部 管理1課 環境管理G
植田 久子

半導体工場である当社では、多くの化学薬品・特殊材料ガスを使用しており、事故・災害防止のためには、当社のリスクに合った対策が必要である。安全な工場づくりを目指して、社員が知恵を出し合い、当社独自の工夫を取り入れながら行っている継続的改善事例を紹介する。

（14:00 ～ 14:10 休憩）14:10

講演 産学協働の博士人材育成
～産業イノベーションを生みだす人づくり～
京都工芸繊維大学
学長
森迫 清貴

京都工芸繊維大学は、歴史ある国立の工科系単科大学である。近年では、企業経営者から自ら研究開発のシナリオを書ける人材、それを実行牽引できる人材が強く求められている。そのようなニーズに応えるべく、本学で実施している産学協働の博士人材育成プログラムについて紹介する。

15:10